

桜蔭俳話会

第一一七回通信句会 選句結果

平成二十七年春。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の句の内数です)

2点①行春の赤き鳥居を潜りけり	幸子	2点	春逝くや風定まらぬ仁王門	秀一
1点 降るでなく降らぬでもなし菜種梅雨	忠夫		これぞ今川に集まるこいのぼり	邦子
2点 空つぼの昼の公園春逝けり	弘子	1点	春風や慈愛あふるる木つ端仏	友子
花菖蒲敗けし魂教えこう	直子	3点	真つ白な靴まぶしかり夏隣	ヤエ子
8点 芽吹きたる火の山石の仏かな	守	8点	野の花に混ざりて染まらず黄水仙	安紀子
八重桜広き広場に見る近く	眞三	1点	花おぼろ妓の名連ねて大提灯	才美
7点 戦死なき七十年や昭和の日	秀一	1点	つまむ手に蓬香残る柏餅	忠夫
1点①老の吹く尺八の音や花の雲	安紀子	1点	涙染む板の黒ずみ絵踏みかな	のり子
習ひ事足踏み状態三月尽	ヤエ子	3点①鶯に目覚め体の覚めやらず	花持ちて帰りは早し四月尽	幸枝
1点 うとうととバス待つ間長閑なり	眞壽			眞三
3点①ヴェネツィアの白きレスカ辛夷さく	のり子	5点②桜東風大樹の下に椅子二つ		幸子
ゴールデンウィーク童海外へ	明美	3点	新緑の中より響く子等の声	弘子
5点 春野蹴りパラグライダー声高く	才美		暗闇に転倒すると山つつじ	直子
1点 古の搭に添ひたる桜映ゆ	幸枝	1点	同窓会今が幸せかきつばた	眞壽
6点③ふらこや少年宇宙にあこがるる	友子	1点	走り茶や虎の巻みてお茶手前	ツル子
2点 和菓子屋の湯気の勢い柏餅	ツル子		一人また先に逝かかめ春の月	守
1点 諏訪大社扉開かば新樹光	のりとし		夏めくや靴音高く気高くと	のりとし
8点②浄瑠璃の肩で泣きゐる春障子	才美	2点	渡船場の一つ消へゐし立夏かな	明美
公園の緑の木々やつつじ咲く	眞壽		睡足りて雨戸開くれば若葉風	邦子
1点 散る花を仰ぎ見ている真鯉かな	幸子			
1点 朝早に北窓開らく風甘し	邦子			
5点③羊水の中にゐしごと花明り	幸枝			
子等の弾く琴音頼もし濃山吹	ヤエ子			
連休に箱根路行けど噴炎禍	忠夫			
2点①若人の爪の伸び行く青葉光	のりとし			
3点 うららかや双手突きだし泣く赤子	秀一			
1点 春深し庭ごとの色あふれしぬ	弘子			
5点 初がっお売場の声の跳ねてをり	ツル子			
8点④山焼くや呼びおふてゐる人の影	のり子			
1点 水底に積もる花びら切りもなし	守			
6点④ひとまはり膨らむ山や木の芽晴	友子			
4点 うたた寝の羅漢も在はず花のころ	安紀子			
3点 庭一面太陽仰ぐたんぼぼよ	直子			
撮り鉄や簾下りゐし「ななつ星」	明美			
春の風親子の外しうたた寝湯	眞三			

【お詫び】

選句のための投句一覧の句は次が正しい表現でした。事務局の不手際をお詫び申し上げます。(今回、選句結果の句は訂正なしで掲載しています。)

・弘子さんの句

春深し庭ごとの色あふれしめ

・守さんの句

一人また先に逝かしめ春の月

【事務局からお知らせ】

○五月句会

・五月三十一日(日)、野毛山動物園で吟行。

○六月句会

・六月二十八日(日)午後一時から

・旭区民文化センター・サンハート